

認定こども園 はぐくみの家 仰木星の子
令和5年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にする教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和6年3月8日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

当園の本年度のテーマに掲げている通り、先日 BBC 放送局に行き、その後保育者を交えながらみんなで再現して遊んでいたが、一人ひとりがアナウンサーやカメラマン、ディレクターなど好きな役になりきり、自分の思いを伝えたり、友だちの意見を聞いたりするなど、子ども同士で体験したことを共有し楽しんでいた。経験したことを再現し遊びにすることがあるが、子ども達が遊びを持続しながら発展していく姿があった。

園庭や室内で子どもが好きな遊びをし、自分のしている遊びを見学者の私たちに誇らしげに話す場面が何度も見られ、夢中で楽しんでいる様子が伺えた。また、保育者も子どもの様子も交えながら導入部分から保育の特徴などを楽しそうに且つ丁寧に話される姿は、重責を担う保育の中でも、仕事にやりがいなどが感じられ、生き生きと保育されていた。

園の特徴とされているプランナー制度がうまく機能し、エントランスに絵の得意な1年目の保育者が描いた絵を飾られていたり、さりげなく花を飾ったり、DIYを得意とする保育者が棚を作るなど、園のあちこちに様々なプランナーの好きが溢れ、まさに“好きこそものの上手なれ”経験年数にかかわらず自分らしさを発揮する場として園全体の活力につながる良い取り組みであった。

子育て支援では、遊びながら紹介できるよう玩具や絵本の種類も多く、子育ての情報がたくさんあり、また支援室でランチを一緒に出来る場所を提供する等、自園でも今後、参考にしたいと思うことがたくさんあった。

こうした特徴的な取り組みを今後も継続且つ発展されることを期待したい。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	こどもの意思と自己決定を尊重する保育。	A	園内研修で本取り組みに係る内容を保育者と共有し、クラスミーティング等で随時話題にしながら、こどもの意思と自己決定の尊重について、皆が考え、保育に取り組むことができた。 今年度の取り組みを継続、発展させて、次年度へつなげていきたい。
2	地域環境を子どもの学びのフィールドにする	B	地域の秋まつりへのブース出展、びわこ放送への訪問など、街へ出かけて学ぶ機会を複数回設けることができた。 次年度は人員配置や、園外保育の計画的な運用を行い、より一層充実させたい。
3	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 こどもの View（意見）を日々保育者は探し、周囲の保育者との対話の中で、子ども理解を深めることに取り組んだ。